

# 集団的自衛権 村上誠一郎、総務会で1人反対

集団的自衛権の閣議決定案を審議した1日の自民党総務会で、たった1人、反対を強く表明したのが村上誠一郎氏。写真。当選9回の62歳である。村上氏が3日、思いを語った。

「今回の集団的自衛権は、自国が攻められていないのに、同盟国が攻められたら戦争をするという。憲法9条をどうひっくり返しても、そうは読めない。解釈で変更するのは禁止手だ。憲法改正を国民に問うて、賛成を求めるしかない。政治的良心と信念から、絶対に認められない」

村上氏は故河本敏夫氏の門弟をもって任じており、三木・河本派のリベラルを強く感じさせる。次の



指摘がハッとさせられた。

「小選挙区制の導入、郵政民営化は、ともに党総務会で激論が戦わされたが、間違った判断だったのではないか」

そして続けた。

「小選挙区制のときは、私は引退した島村宜伸氏と一緒に最後まで反対した。マスコミから守旧派とバッシングされた。最後は多くの議員がおかしいと思いつつながら小沢一郎氏の手法に引きずられた」

郵政のときは、「私は現職の行政改革担当相だった。このときも島村農水相と2人で

## 鈴木棟一の風雲永田町

4942

辞表を持って反対に回った。仲間の高村正彦氏が本会議を欠席した。私が辞表をたたきつけると高村氏が除名され、選挙で仲間の応援に行く人がいなくなる。私は辞表を引っこめ、島村氏は閣僚を罷免された」

村上氏は総務会で求めた。

「小選挙区と郵政の間違いがある。あとで歴史的検証が必要だ。総務会で賛成、反対の発言内容を記録してほしい」

しかし野田聖子総務会長から拒否された。

「そのような慣例はありません」総務会は2時間近くに及び、全員が意見を述べた。反対は村上氏一人ともある」

だった。

村上氏が回顧した。

「今回、党内の民主主義が失われた」と

どういう意味か。

「自民党は自由闊達(かつたつ)な議論ができる党だった。それがここ数年、自由な議論が少なくなった。小選挙区制は、党幹部が公認、比例の順位、お金を握り、幹部の意向に逆らうと次の選挙が危うくなる。自分の思うことを言えなくなる」

秋の国会で法案にどう対応するか。

「法案の中身を見て判断する。私は特定秘密保護法で1人欠席した。欠席も本会議場で座って反対することもある」

## 「小選挙区制と郵政の轍踏む恐れ」

(政治評論家)